

# 2022年度 第2四半期 決算説明会

2022年11月9日

**ブラザー工業株式会社**

**常務執行役員財務担当 伊藤 敏宏**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確実要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2022年度 第2四半期（7月-9月）実績

主に為替のプラス影響により増収となるものの、P&S事業における消耗品販売減による粗利減や部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となる

## ◆ 売上収益 1,969億円/+11.6%（前年同期比）

- ✓ 為替が円安に推移したことによるプラス影響が増収に大きく寄与
- ✓ P&S事業は、為替影響を除くと、消耗品の値上げ前駆け込み需要の反動減により減収
- ✓ P&H事業は、巣ごもり需要が一巡したことに加え、中高級機種の販売減により減収

## ◆ 事業セグメント利益 111億円/ -52.1%（前年同期比）

- ✓ 主にP&S事業における消耗品販売減にともなう粗利減により、大幅な減益
- ✓ 部材コストの高騰、販管費の増加などが利益を圧迫

## 2022年度 通期業績予想

売上収益は、為替のプラス影響に加え、P&S事業における供給制約の緩和などを反映し、上方修正  
事業セグメント利益は、為替のプラス影響があるものの、部材コストの高騰や、上期における利益の下振れを反映し、下方修正

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2

## 2022年度 第2四半期決算

主に為替のプラス影響により増収となったものの、P&S事業における消耗品販売減による粗利減や部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となりました。

## 売上収益

前年同期比 11.6%増の 1,969億円となりました。

P&S事業は、部材不足による供給制約が緩和されたこととともない、インクジェット複合機、レーザー複合機・プリンターとも製品本体の販売が堅調に推移しました。消耗品については、値上げ前の駆け込み需要の反動減などがあったものの、為替のプラス影響により事業全体では増収となりました。

P&H事業は、為替のプラス影響があったものの、巣ごもり需要が一巡したことに加え、中高級機種の販売減により減収となりました。

## 事業セグメント利益

前年同期比 52.1%減の 111億円となりました。

P&S事業における消耗品販売減による粗利減や部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となりました。

## 2022年度 通期業績予想

売上収益は、為替のプラス影響に加え、P&S事業における供給制約の緩和などを反映し、上方修正しました。  
事業セグメント利益は、為替のプラス影響があるものの、部材コストの高騰や、上期における利益の下振れを反映し、下方修正しました。

## 2022年度 第2四半期（7月-9月）業績

主に為替のプラス影響により増収となるものの、  
P&S事業における消耗品販売減による粗利減や  
部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となる

単位：億円

	21Q2	22Q2	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	1,765	<b>1,969</b>	204 (▲37)	11.6% (▲2.1%)
事業セグメント利益	232	<b>111</b>	▲121 (▲152)	▲52.1% (▲65.5%)
事業セグメント利益率	13.2%	<b>5.7%</b>		
その他の収益・費用	15	<b>13</b>	▲2	
営業利益	247	<b>124</b>	▲123	▲49.6%
営業利益率	14.0%	<b>6.3%</b>		
税引前利益	248	<b>129</b>	▲119	▲48.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	182	<b>129</b>	▲53	▲29.3%
USD	110.47	<b>138.68</b>	28.21	
EUR	130.31	<b>140.32</b>	10.01	

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

4

それでは、業績説明です。

2022年度 第2四半期の売上収益は、  
前年同期比 204 億円増となる **1,969 億円** となりました。

利益面は、  
事業セグメント利益は、 121 億円減の **111 億円**  
営業利益は、 123 億円減の **124 億円**  
親会社当期利益は、 53 億円減の **129 億円** と大幅な減益となりました。

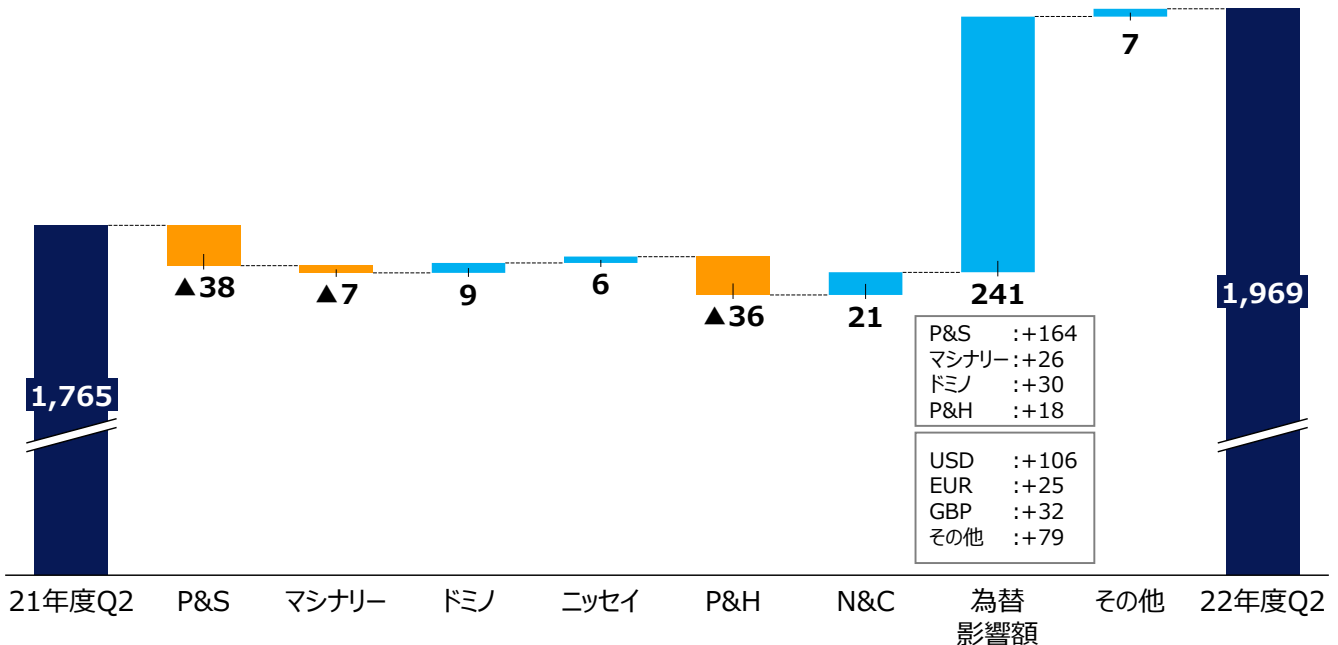
	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21Q2	22Q2	増減	21Q2	22Q2	増減	21Q2	22Q2	増減
P&S	1,061	1,187	126	159	51	▲108	164	54	▲109
マシナリー	221	240	19	31	32	1	32	34	2
ドミノ	212	251	40	22	13	▲9	22	18	▲4
ニッセイ	50	59	9	5	6	1	5	6	1
P&H	134	116	▲18	26	7	▲19	28	8	▲19
N&C	64	85	22	▲12	1	13	▲5	2	7
その他	23	31	7	0	2	1	2	2	▲0
合計	1,765	1,969	204	232	111	▲121	247	124	▲123

事業セグメントごとの業績一覧です。

なお、中期戦略「CS B2024」（2022年度～2024年度）に基づき、2022年度より開示セグメントを変更しました。  
2021年度の数値は、現在のセグメントに組み替えたものを使用しております。  
以降のページも同様です。

主にP&S事業とP&H事業が減収となるものの、為替のプラス影響により増収となる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度 第2四半期の売上収益の増減要因です。

・P&S

製品本体については、供給制約が緩和されたことともなう販売数量の増加に加え、価格対応の効果がありました。一方で、消耗品については、米国における物流の混乱や、欧州における値上げ前の駆け込み需要の反動減などがあり、事業全体では減収となりました。

・マシナリー

工業用マシンは、アパレル向け設備投資需要の回復により堅調に推移したものの、産業機器は、第1四半期に引き続き部材不足による供給制約の影響を受け、減収となりました。

・ドミノ

C&M・DPともに、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

設備投資需要の拡大により、主に減速機が好調に推移し、増収となりました。

・P&H

巣ごもり需要が一巡したことに加え、中高級機種の販売減により、減収となりました。

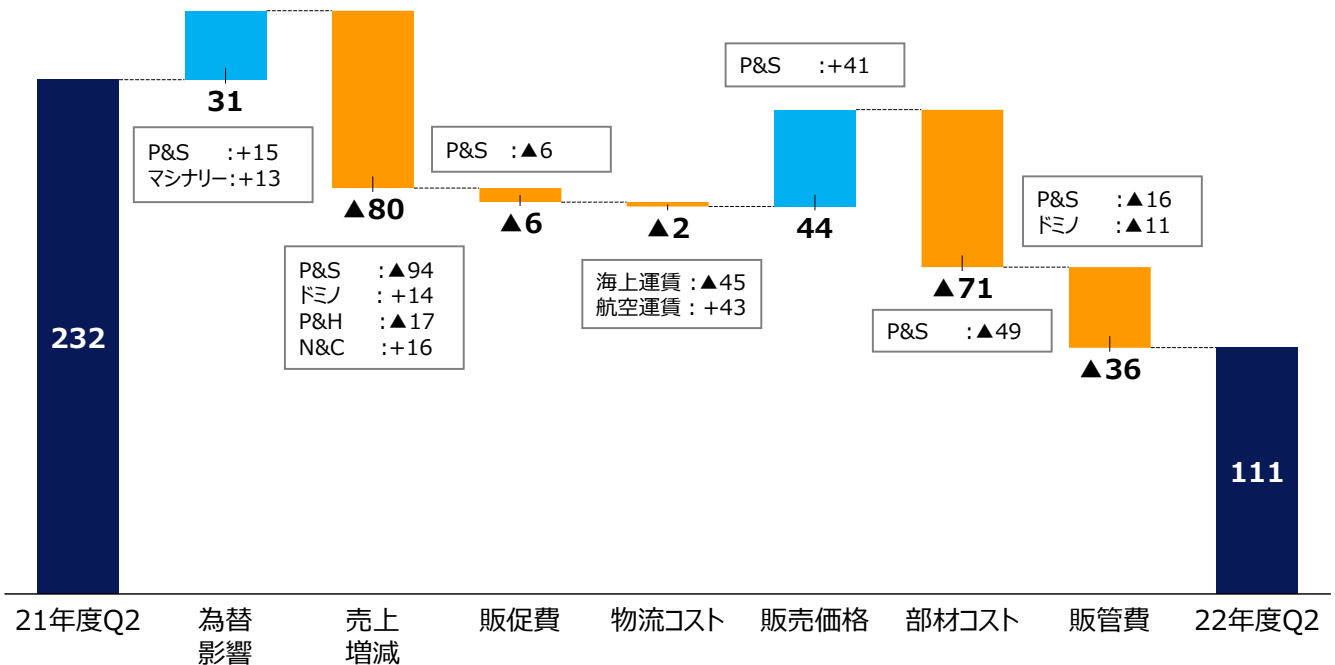
・N&C

新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和にともない、客足は回復し、増収となりました。

為替が円安に推移したことによるプラス影響 241 億円が加わり、  
全社では 204 億円増となる **1,969 億円** となりました。

主にP&S事業における価格対応の効果や為替のプラス影響があったものの、  
P&S事業における消耗品販売減にともなう粗利減や  
部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となる

単位：億円



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

事業セグメント利益の増減要因です。主要な要素についてコメントします。

・為替影響

P&S事業、マシナリー事業を中心に、ほぼすべての事業で為替のプラス影響がありました。

・売上増減

主にP&S事業、P&H事業の売上減が影響しました。

P&S事業においては、製品本体の販売は堅調に推移したものの、消耗品の販売が大幅に減少しました。

・販売価格

主にP&S事業によるものです。価格対応の効果により、平均単価が上がりました。

・部材コスト

主にP&S事業での電子部品などのコストアップによるものです。

・販管費

人件費を中心に増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 121億円減の **111** 億円となりました。

## 2022年度 上期（4月-9月）累計業績



為替のプラス影響に加え、主に第1四半期においてP&S事業が堅調に推移したことにより、増収となる事業セグメント利益は、主にP&S事業における価格対応の効果があったものの、部材コストの高騰に加え、販管費が増加したことなどにより、大幅な減益となる

単位：億円

	21年度Q2 累計実績	22年度Q2 累計実績	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	3,505	<b>3,967</b>	461 (46)	13.2% (1.3%)
事業セグメント利益	494	<b>359</b>	▲135 (▲190)	▲27.3% (▲38.5%)
事業セグメント利益率	14.1%	<b>9.1%</b>		
その他の収益・費用	18	<b>15</b>	▲2	
営業利益	512	<b>375</b>	▲137	▲26.8%
営業利益率	14.6%	<b>9.4%</b>		
税引前利益	516	<b>382</b>	▲134	▲25.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	368	<b>303</b>	▲66	▲17.8%
USD	110.18	<b>133.46</b>	23.28	
EUR	130.97	<b>138.79</b>	7.82	

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

9

2022年度上期の売上収益は、前年同期比 461 億円増となる **3,967** 億円となりました。

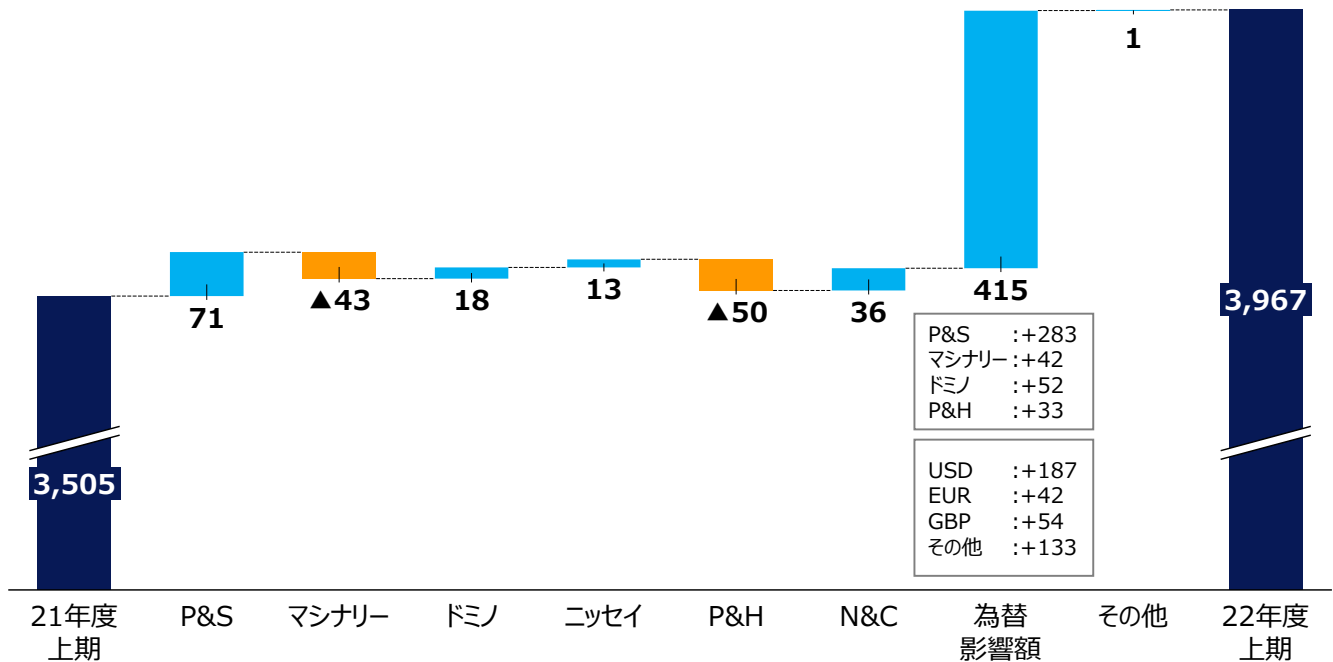
利益面では、  
 事業セグメント利益は、 135 億円減の **359** 億円  
 営業利益は、 137 億円減の **375** 億円  
 親会社当期利益は、 66 億円減の **303** 億円 となりました。

	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	21年度 Q2累計	22年度 Q2累計	増減	21年度 Q2累計	22年度 Q2累計	増減	21年度 Q2累計	22年度 Q2累計	増減
<b>P&amp;S</b>	2,052	2,405	353	323	230	▲93	327	224	▲103
マシナリー	474	474	▲0	78	53	▲25	78	58	▲19
ドミノ	419	489	70	43	30	▲14	43	37	▲5
ニッセイ	101	119	18	10	12	2	10	13	3
P&H	275	258	▲17	58	27	▲31	58	28	▲30
N&C	133	169	36	▲20	4	24	▲9	9	17
その他	51	52	1	2	5	3	4	5	1
<b>合計</b>	<b>3,505</b>	<b>3,967</b>	<b>461</b>	<b>494</b>	<b>359</b>	<b>▲135</b>	<b>512</b>	<b>375</b>	<b>▲137</b>

事業セグメントごとの業績一覧です。

主に為替のプラス影響により増収となる

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度上期の売上収益の増減要因です。

・P&S

消耗品については、値上げ前の駆け込み需要とその反動減などがあったものの、製品本体については、供給制約が緩和されたことともなう販売数量の増加に加え、価格対応の効果があり、事業全体では増収となりました。

・マシンリー

工業用マシンのアパレル向け設備投資需要は堅調に推移したものの、産業機器が部材不足による供給制約の影響を受け、減収となりました。

・ドミノ

C&M・DPともに、消耗品が堅調に推移し、増収となりました。

・ニッセイ

設備投資需要の拡大により、主に減速機が好調に推移し、増収となりました。

・P&H

各地域で巣ごもり需要が一巡したことにより、減収となりました。

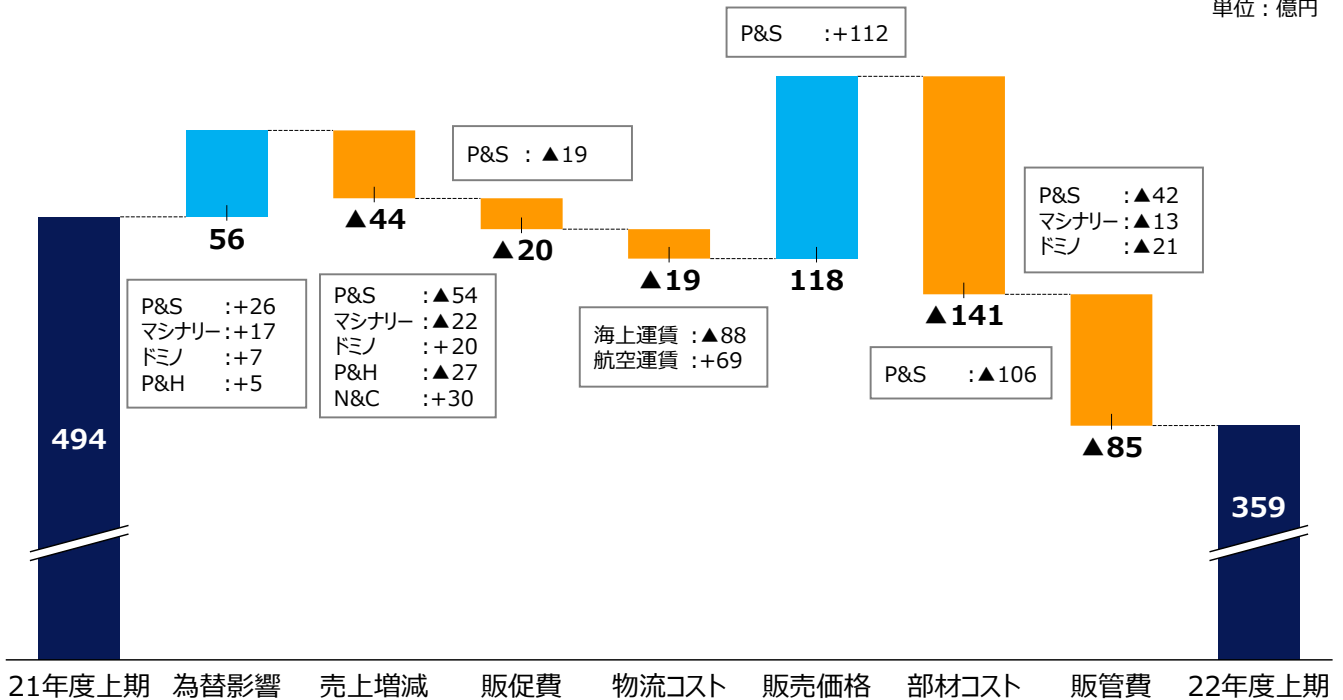
・N&C

新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和にともない、客足は回復し、増収となりました。

為替が円安に推移したことによるプラス影響 415 億円が加わり、全社では 461 億円増の **3,967** 億円となりました。

主にP&S事業における価格対応の効果や為替のプラス影響があったものの、部材コストの悪化や販管費の増加、粗利減により減益となる

単位：億円



事業セグメント利益の増減要因です。主要要素についてコメントします。

・為替影響

ほぼすべての事業で為替のプラス影響がありました。

・売上増減

主にP&S事業、P&H事業、マシナリー事業における売上減が影響しました。  
P&S事業については、製品本体の販売は堅調に推移したものの、消耗品の販売が減少しました。

・販売価格

主にP&S事業によるものです。価格対応の効果により、平均単価があがりました。

・部材コスト

主にP&S事業での電子部品などのコストアップによるものです。

・販管費

人件費を中心に増加しました。

これらにより、事業セグメント利益は、前年同期比 135 億円減の **359** 億円となりました。

## 2022年度 通期業績予想

売上収益は、為替のプラス影響に加え、P&S事業における供給制約の緩和などを反映し、上方修正  
事業セグメント利益は、部材コストの高騰や上期における利益の下振れを反映し、下方修正

単位：億円

	前回予想	22年度 今回予想	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率	21年度 実績	増減 ( ) は為替影響 除く増減	増減率 ( ) は為替影響 除く増減率
売上収益	7,750	<b>8,400</b>	650 (194)	8.4% (2.5%)	7,109	1,291 (527)	18.2% (7.4%)
事業セグメント利益	730	<b>700</b>	▲30 (▲37)	▲4.1% ▲5.0%	846	▲146 (▲175)	▲17.2% ▲20.7%
事業セグメント利益率	9.4%	<b>8.3%</b>			11.9%		
その他の収益・費用	0	<b>30</b>	30		9	21	
営業利益	730	<b>730</b>	0	0.0%	855	▲125	▲14.6%
営業利益率	9.4%	<b>8.7%</b>			12.0%		
税引前利益	730	<b>730</b>	0	0.0%	864	▲134	▲15.5%
親会社の所有者に帰属する							
当期利益	510	<b>510</b>	0	0.0%	610	▲100	▲16.4%
USD	122.00	<b>134.92</b>	12.92		112.86	22.06	
EUR	133.00	<b>137.61</b>	4.61		131.01	6.60	

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

通期の業績予想についてです。

業績予想の前提となる予想部分の為替レートを、足元の状況を踏まえ、  
1 USD = 122円から135円へ、1 EUR = 133円から135円へとそれぞれ変更しました。

売上収益は、為替のプラス影響に加え、P&S事業の供給制約の緩和などを反映し、  
2022年5月11日に公表した前回予想から650億円増の **8,400億円** に引き上げます。

一方、事業セグメント利益は、部材コストの高騰や上期における利益の下振れを反映し、  
30億円減の **700億円** に引き下げます。

営業利益以下の各段階利益は、前回予想から変更はありません。

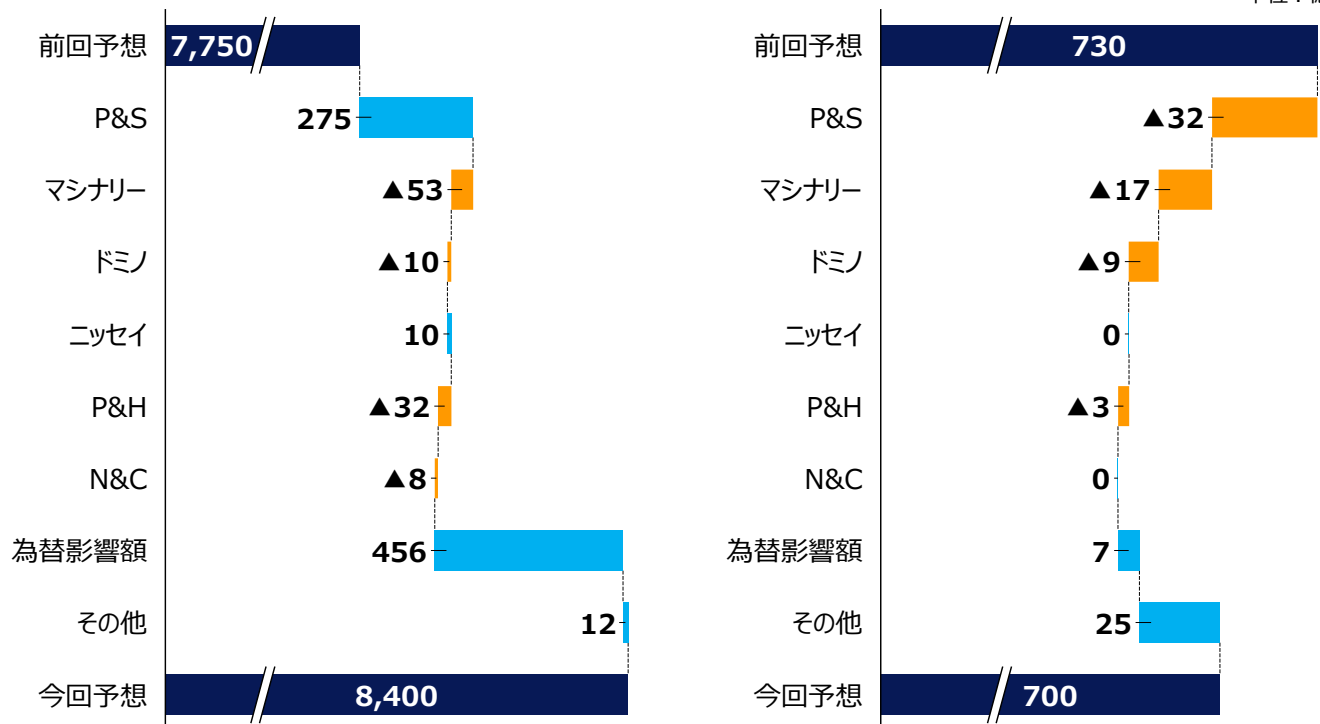
	売上収益			事業セグメント利益			営業利益		
	前回予想	22年度 今回予想	増減	前回予想	22年度 今回予想	増減	前回予想	22年度 今回予想	増減
P&S	4,553	5,132	579	485	430	▲55	485	430	▲55
マシナリー	1,070	1,053	▲17	135	135	0	136	136	0
ドミノ	900	966	66	43	43	0	42	42	0
ニッセイ	220	234	13	18	18	0	16	16	0
P&H	513	517	4	60	60	0	60	60	0
N&C	369	361	▲8	4	4	0	4	4	0
その他	125	137	12	▲15	10	25	▲13	42	55
<b>合計</b>	<b>7,750</b>	<b>8,400</b>	<b>650</b>	<b>730</b>	<b>700</b>	<b>▲30</b>	<b>730</b>	<b>730</b>	<b>0</b>

事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

売上収益の増減

事業セグメント利益の増減

単位：億円



※増減額は為替影響を除いた実質ベース

2022年度の売上収益・事業セグメント利益の前回予想からの主な修正要因です。

・P&S

供給制約の緩和により売上は上方修正するものの、部材コストの高騰や上期における利益の下振れ分を反映し、事業セグメント利益は下方修正。

・P&S以外

為替影響込みでの見通しは変更してありません。(p15参照)

これらに為替のプラス影響が加わり、全社では売上収益の見通しを引き上げるものの、事業セグメント利益は引き下げます。

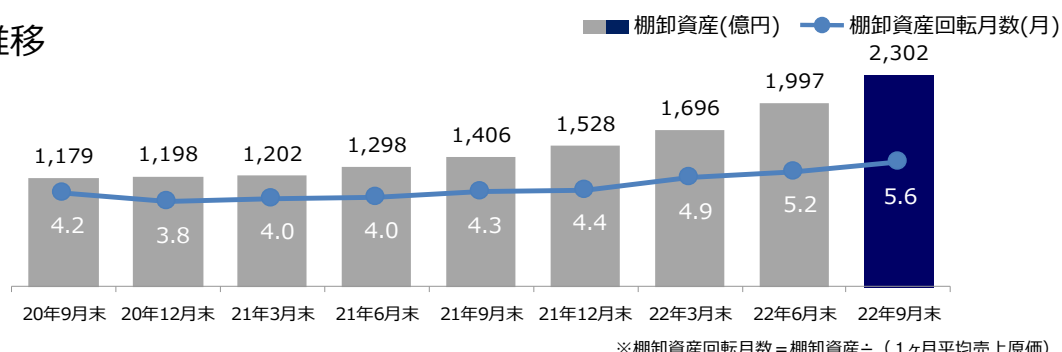


単位：億円

	22年3月末	22年9月末	増減
流動資産	4,767	5,294	527
現預金	1,679	1,298	▲382
棚卸資産	1,696	2,302	606
非流動資産	3,344	3,482	138
負債合計	2,499	2,660	161
有利子負債	408	415	7
株主資本	5,611	6,116	504
総資産	8,111	8,776	665

	22年3月末	22年9月末	増減
ネット・キャッシュ	1,271	882	▲389
株主資本比率	69.2%	69.7%	0.5%
ROE	11.7%	-	-

## 棚卸資産推移



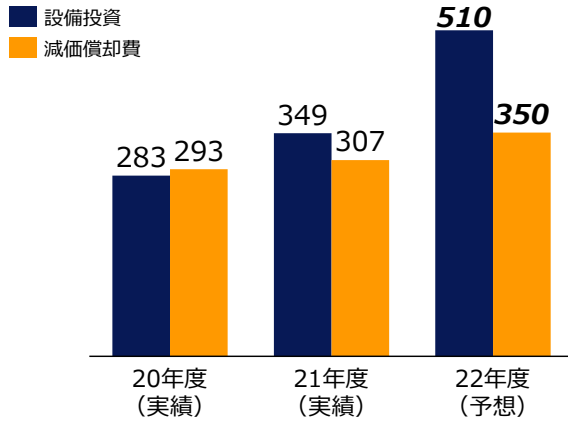
© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

17

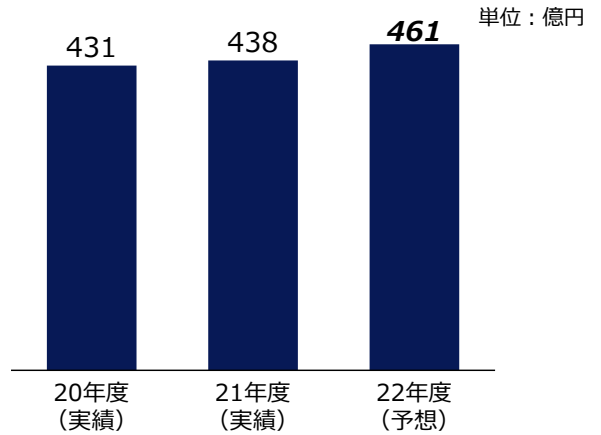
ネットキャッシュは、882億円となりました。

棚卸資産については、主にP&S事業において積送在庫が増加しています。

設備投資・減価償却費



研究開発費



設備投資内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	52	68	113
民生用領域他	231	281	397
計	283	349	510

研究開発費内訳

	20年度	21年度	22年度
産業用領域	91	103	129
民生用領域他	340	335	332
計	431	438	461

\*産業用領域は、マシンリー事業、ドミノ事業、ニッセイ事業の内訳を合算したものです。

2022年度の設備投資、減価償却費、研究開発費については、前回公表時から変更はありません。

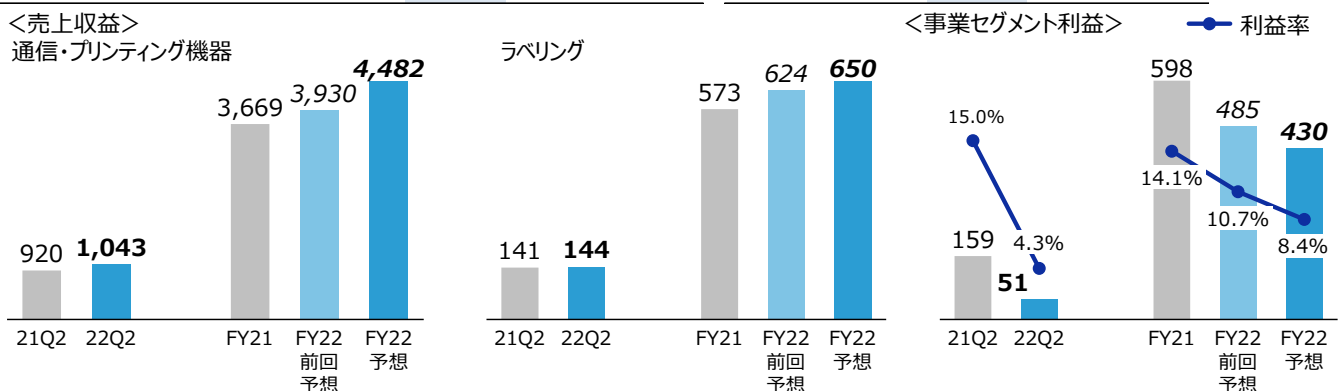
## セグメント業績概要

※2022年度第1四半期の地域別売上収益は、以下にて補足情報として公開しております。  
<https://download.brother.com/pub/jp/investor/accounts/tansin/2022q1/2022q1-sup.pdf>

# プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益



	21Q2	22Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率	単位：億円
<b>売上収益</b>	<b>1,061</b>	<b>1,187</b>	<b>11.9%</b>	<b>-3.6%</b>	<b>4,242</b>	<b>4,553</b>	<b>5,132</b>	<b>21.0%</b>	<b>8.4%</b>	
<b>通信・プリンティング機器</b>	<b>920</b>	<b>1,043</b>	<b>13.4%</b>	<b>-2.2%</b>	<b>3,669</b>	<b>3,930</b>	<b>4,482</b>	<b>22.2%</b>	<b>9.5%</b>	
米州	331	392	18.6%	-4.2%	1,307	1,518	1,800	37.7%	16.6%	
欧州	290	295	1.7%	-6.5%	1,210	1,151	1,335	10.4%	4.5%	
アジア他	189	240	27.2%	8.9%	698	732	860	23.4%	10.6%	
日本	110	116	5.0%	-4.0%	455	529	486	7.0%	0.8%	
<b>ラベリング</b>	<b>141</b>	<b>144</b>	<b>1.7%</b>	<b>-12.5%</b>	<b>573</b>	<b>624</b>	<b>650</b>	<b>13.4%</b>	<b>1.2%</b>	
米州	68	65	-4.2%	-23.0%	260	282	321	23.6%	4.4%	
欧州	39	39	-1.3%	-8.9%	173	188	181	4.3%	-1.0%	
アジア他	22	30	36.3%	16.8%	91	101	102	11.7%	0.1%	
日本	12	10	-18.3%	-18.3%	49	53	47	-5.4%	-5.4%	
										※日本にOEMを含む
<b>事業セグメント利益</b>	<b>159</b>	<b>51</b>	<b>-68.1%</b>	<b>-</b>	<b>598</b>	<b>485</b>	<b>430</b>	<b>-28.0%</b>	<b>-</b>	
<b>営業利益</b>	<b>164</b>	<b>54</b>	<b>-66.8%</b>	<b>-</b>	<b>594</b>	<b>485</b>	<b>430</b>	<b>-27.6%</b>	<b>-</b>	



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

P&S事業の第2四半期の売上収益は **1,187** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス3.6%となりました。

## ・通信・プリンティング機器

売上収益は **1,043** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス2.2%となったものの、  
為替のプラス影響により、通信・プリンティング機器全体では、増収となりました。

## ・ラベリング

売上収益は **144** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス12.5%となりました。  
部材不足による供給制約の影響を受け、主に製品本体の販売が落ち込みました。

事業セグメント利益は、**51** 億円。

価格対応の効果や為替のプラス影響があったものの、  
消耗品販売減にともなう粗利減や、部材コストの高騰、販管費の増加などにより、大幅な減益となりました。

	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	21Q1	21Q2	21Q3	21Q4	22Q1	22Q2	22Q3	22Q4	20通期	21通期
<b>LBP</b>														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	6%	19%	18%	18%	-10%	-4%	-9%	-8%	41%	45%	-	-	15%	-8%
消耗品	-18%	1%	0%	-1%	21%	15%	14%	16%	18%	-8%	-	-	-5%	16%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	11%	22%	21%	18%	-16%	-9%	-15%	-13%	25%	23%	-	-	18%	-13%
消耗品	-15%	2%	2%	-3%	12%	9%	6%	9%	7%	-20%	-	-	-4%	9%
<b>IJP</b>														
売上伸び率（円ベース/前年比）														
本体	-37%	-49%	-12%	-3%	90%	95%	17%	15%	18%	32%	-	-	-25%	45%
消耗品	-23%	-1%	9%	-6%	11%	-6%	-3%	2%	19%	-2%	-	-	-5%	0%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）														
本体	-33%	-48%	-9%	-3%	79%	87%	11%	10%	8%	16%	-	-	-23%	38%
消耗品	-20%	-1%	10%	-8%	5%	-10%	-7%	-2%	11%	-12%	-	-	-5%	-4%
消耗品比率														
	55%	57%	55%	56%	56%	57%	58%	59%	53%	47%	-	-	55%	57%
販売台数伸び率（前年比）														
LBP	12%	10%	6%	0%	-28%	-16%	-20%	-16%	14%	9%	-	-	7%	-20%
IJP	-39%	-57%	-24%	-25%	65%	101%	1%	7%	8%	16%	-	-	-36%	34%

※22Q1のLBP本体の売上伸び率（現地通貨ベース）を前回公表時（2022年8月5日）の28%から25%へ修正しました。

第2四半期における主要製品の売上伸び率・構成比についてです。

**・売上伸び率（現地通貨ベース）**

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体はプラス23%、消耗品はマイナス20%、  
インクジェット（IJP）の売上伸び率は、本体はプラス16%、消耗品はマイナス12%となりました。

製品本体は、供給制約が緩和されたことともなう販売数量の増加に加え、  
価格対応の効果もあり、前年同期を上回りました。

消耗品は、欧州における値上げ前の駆け込み需要の反動減や、  
米国での物流の混乱などの影響を受け、大きく落ち込みました。

**・販売台数伸び率：**

部材不足による供給制約が緩和されたこととともない、レーザー・インクジェットともに、販売台数は前年同期を上回りました。

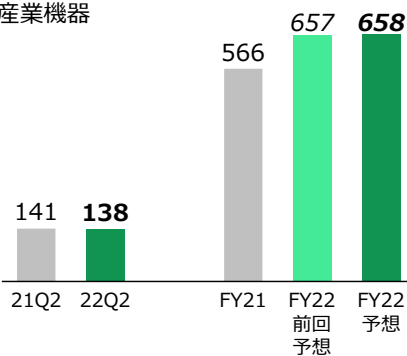
# マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

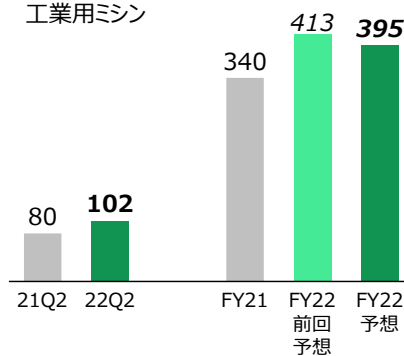
単位：億円

	21Q2	22Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>221</b>	<b>240</b>	<b>8.6%</b>	<b>-3.1%</b>	<b>905</b>	<b>1,070</b>	<b>1,053</b>	<b>16.3%</b>	<b>7.7%</b>
<b>産業機器</b>	<b>141</b>	<b>138</b>	<b>-1.7%</b>	<b>-8.8%</b>	<b>566</b>	<b>657</b>	<b>658</b>	<b>16.4%</b>	<b>11.4%</b>
米州	10	5	-45.2%	-	33	36	35	7.2%	-
欧州	8	6	-28.3%	-	34	36	35	2.8%	-
アジア他	102	105	3.0%	-	408	468	444	8.7%	-
日本	21	22	4.8%	-	90	117	143	59.5%	-
<b>工業用マシン</b>	<b>80</b>	<b>102</b>	<b>26.7%</b>	<b>6.8%</b>	<b>340</b>	<b>413</b>	<b>395</b>	<b>16.1%</b>	<b>1.6%</b>
米州	23	27	14.9%	-7.8%	94	116	115	22.6%	2.6%
欧州	15	19	28.6%	19.4%	72	84	80	10.4%	4.8%
アジア他	39	51	31.2%	7.3%	159	191	182	14.4%	-2.3%
日本	3	4	50.4%	50.4%	15	22	18	21.3%	21.3%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>31</b>	<b>32</b>	<b>1.8%</b>	<b>-</b>	<b>126</b>	<b>135</b>	<b>135</b>	<b>7.3%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>32</b>	<b>34</b>	<b>7.4%</b>	<b>-</b>	<b>126</b>	<b>136</b>	<b>136</b>	<b>8.1%</b>	<b>-</b>

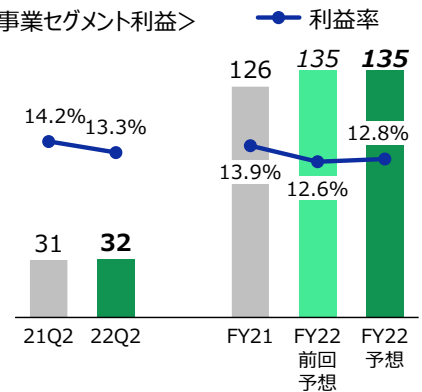
## <売上収益> 産業機器



## 工業用マシン



## <事業セグメント利益>



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

マシナリー事業の第2四半期の売上収益は **240** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス3.1%となりました。

### ・産業機器

売上収益は、**138** 億円。現地通貨ベースでの伸び率は、マイナス 8.8%となりました。  
受注は堅調に推移したものの、第1四半期に続き部材不足による供給制約の影響を受けました。

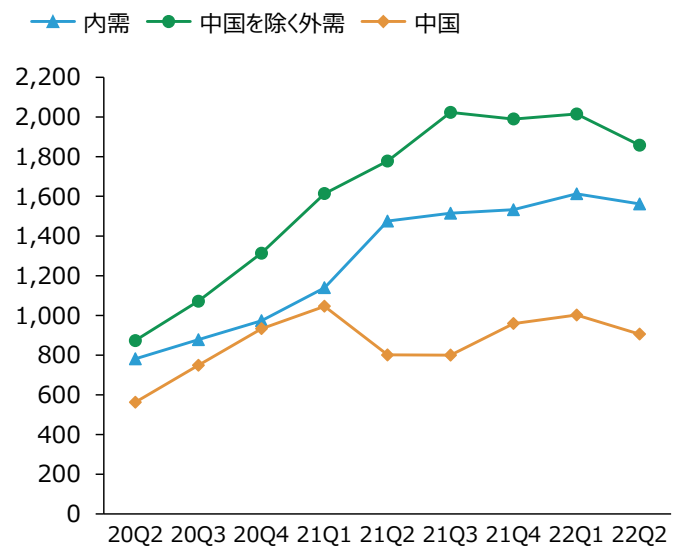
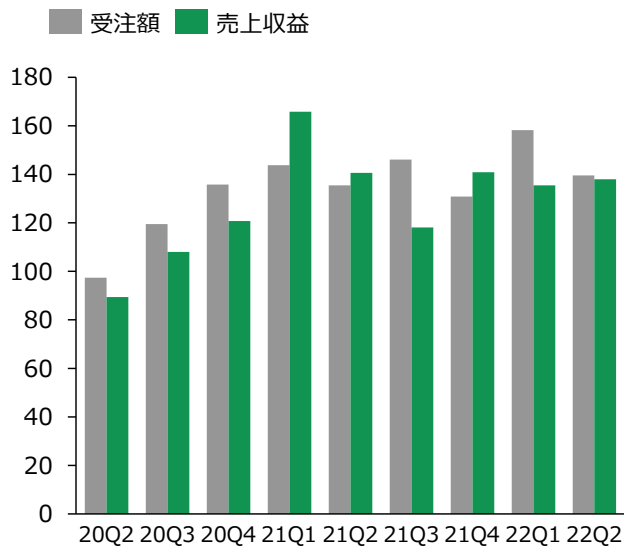
### ・工業用マシン

売上収益は、**102** 億円、現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 6.8%となりました。  
工業用マシンについては、アジア向けアパレル設備投資需要の回復により堅調に推移しました。  
ガーメントプリンターについては、主に米国での販売が減少したものの、為替のプラス影響により、増収となりました。

事業セグメント利益は、**32** 億円。  
部材コストの高騰や販管費の増加があったものの、為替のプラス影響により、前年同期並みの水準となりました。

受注額・売上収益の推移

（参考）日工会受注統計



※国内・海外の製品本体の受注額合計  
海外受注額は各四半期の為替レートにて円換算

※出所：（一社）日本工作機械工業会 工作機械主要統計より

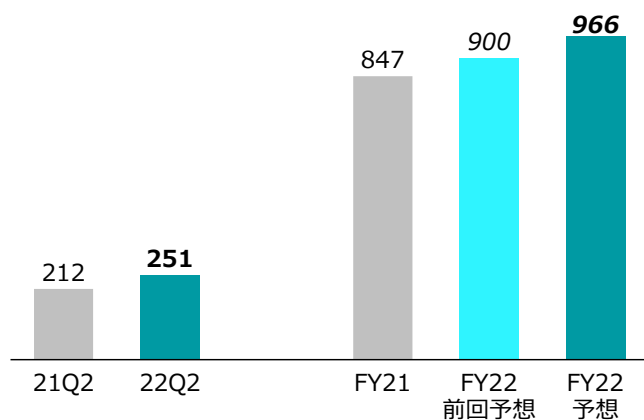
四半期ごとの売上収益と受注額です。  
受注額は、国内受注と海外受注を合わせた製品本体受注の合計額です。

22年度第2四半期は、内需・外需ともに受注は堅調に推移しています。

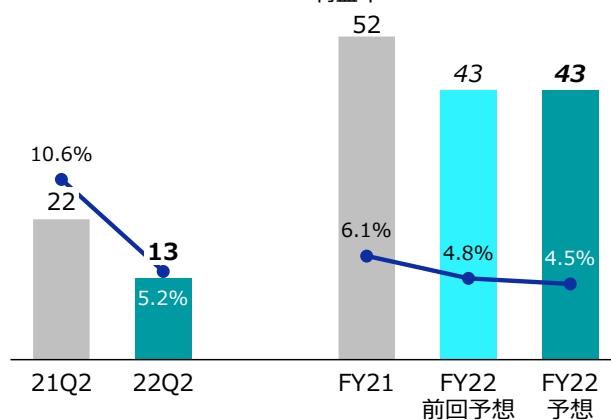
単位：億円

	21Q2	22Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>212</b>	<b>251</b>	<b>18.8%</b>	<b>4.4%</b>	<b>847</b>	<b>900</b>	<b>966</b>	<b>14.0%</b>	<b>4.4%</b>
米州	51	57	13.3%	-0.6%	202	215	233	15.3%	4.8%
欧州	91	111	22.5%	7.5%	379	388	416	9.9%	1.7%
アジア他	62	72	14.6%	-1.0%	237	253	276	16.7%	4.2%
日本	8	11	44.5%	44.5%	30	44	41	36.3%	36.3%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>22</b>	<b>13</b>	<b>-41.8%</b>	<b>-</b>	<b>52</b>	<b>43</b>	<b>43</b>	<b>-16.7%</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b>	<b>22</b>	<b>18</b>	<b>-19.7%</b>	<b>-</b>	<b>43</b>	<b>42</b>	<b>42</b>	<b>-2.5%</b>	<b>-</b>

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

24

ドミノ事業の第2四半期の売上収益は **251** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 4.4%となりました。

製品本体は、C&Mが堅調に推移しました。  
消耗品についてはC&M・DPともに引き続き堅調に推移しています。

事業セグメント利益は、**13** 億円。  
営業活動の再開にともない販管費が増加したことなどにより、大幅な減益となりました。



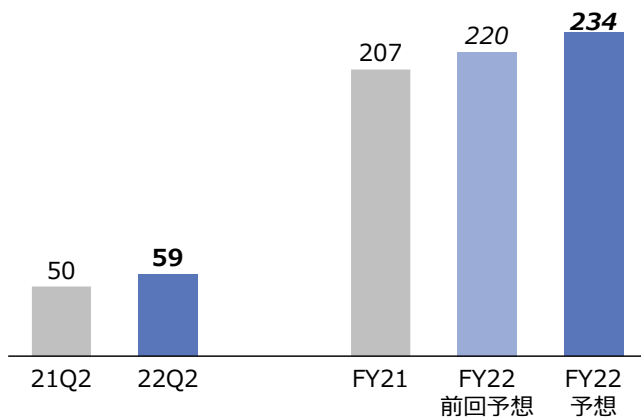
# ニッセイ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

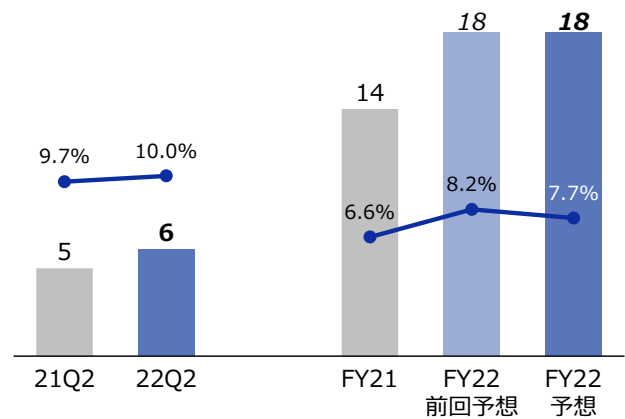
単位：億円

	21Q2	22Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>50</b>	<b>59</b>	<b>17.6%</b>	<b>11.6%</b>	<b>207</b>	<b>220</b>	<b>234</b>	<b>12.8%</b>	<b>8.3%</b>
米州	8	8	7.4%	-14.6%	30	32	37	21.1%	1.0%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	6	11	68.7%	48.0%	28	31	35	22.2%	12.5%
日本	36	40	10.7%	10.7%	149	158	162	9.0%	9.0%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>21.5%</b>	-	<b>14</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>30.8%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>21.3%</b>	-	<b>13</b>	<b>16</b>	<b>16</b>	<b>18.6%</b>	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

25

ニッセイ事業の第2四半期の売上収益は **59** 億円。  
現地通貨ベースでの伸び率は、プラス 11.6%となりました。

工場における自動化ニーズの高まりなど、設備投資需要の拡大により、主に減速機が好調に推移しました。

事業セグメント利益は、**6** 億円。  
増収の効果により、増益となりました。

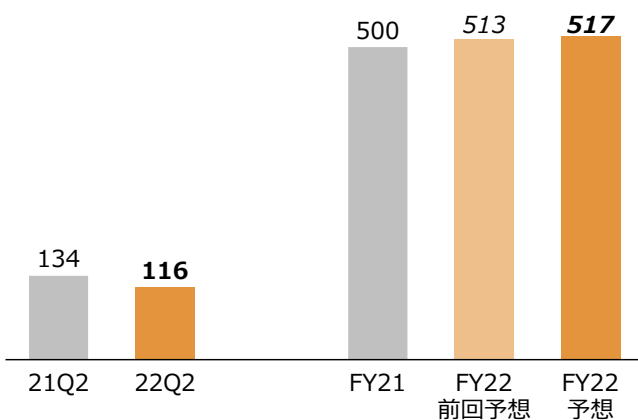
パーソナル&ホーム事業  
売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

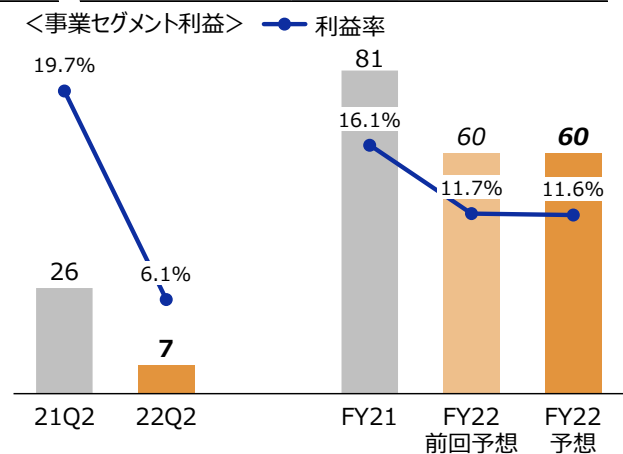
単位：億円

	21Q2	22Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>134</b>	<b>116</b>	<b>-13.4%</b>	<b>-27.0%</b>	<b>500</b>	<b>513</b>	<b>517</b>	<b>3.4%</b>	<b>-8.9%</b>
米州	79	77	-2.6%	-21.6%	277	295	325	17.3%	-1.4%
欧州	36	20	-45.0%	-49.0%	140	140	106	-24.5%	-28.2%
アジア他	12	14	13.4%	-0.7%	52	60	55	7.1%	-2.1%
日本	7	6	-21.3%	-21.3%	31	18	31	0.4%	0.4%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>26</b>	<b>7</b>	<b>-73.1%</b>	-	<b>81</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>-25.7%</b>	-
<b>営業利益</b>	<b>28</b>	<b>8</b>	<b>-70.3%</b>	-	<b>82</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>-26.9%</b>	-

<売上収益>



<事業セグメント利益>



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

26

P&H事業の第2四半期の売上収益は **116** 億円、  
現地通貨ベースの伸び率では、マイナス 27.0%となりました。

各地域で巣ごもり需要が一巡したことに加え、欧米を中心として中高級機の販売が減少しました。

事業セグメント利益は、**7** 億円。  
減収に加え、中高級機の販売減少による製品ミックスの悪化や、  
部材コストの高騰などの影響により、大幅な減益となりました。

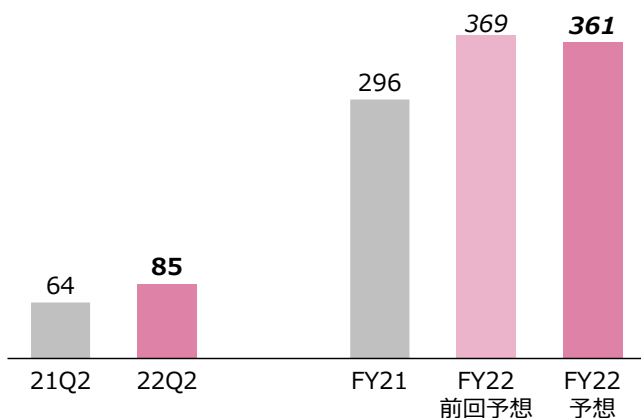
# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother  
at your side

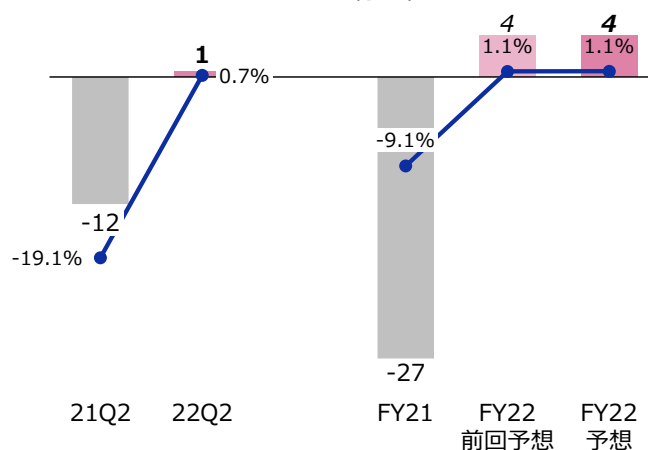
単位：億円

	21Q2	22Q2	増減率	FY21	FY22 前回予想	FY22 予想	対前年 増減率
売上収益	64	85	33.7%	296	369	361	22.2%
事業セグメント利益	▲12	1	-	▲27	4	4	-
営業利益	▲5	2	-	▲6	4	4	-

<売上収益>



<事業セグメント利益> ● 利益率



© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

27

N&C事業の第2四半期の売上収益は **85** 億円。前年同期比 プラス 33.7%となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動規制の緩和により、客足が回復しました。

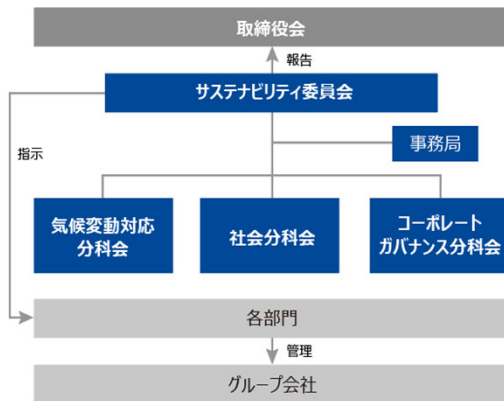
事業セグメント利益は、前年同期の 12億円の赤字に対して、**1**億円の黒字となりました。

営業利益は、時短協力金や雇用調整助成金などの給付金の効果もありました。

## ESGの取り組み

最後に、ESGの取り組みについてご紹介します。

2022年4月に社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置  
サステナビリティ基本方針に基づき、マテリアリティへの取り組みを中心とした活動を推進



分科会	役割	2022年度 活動進捗
気候変動対応分科会	地球の未来に関わるマテリアリティ解決に向けた全社活動の推進	CO2排出削減、資源循環の目標達成に向けて活動を推進 ・ Scope1,2：省エネ・創エネ活動が順調に推移するも、世界のエネルギー事情悪化に伴う影響を補完する更なる削減策を検討 ・ Scope3、資源循環：各事業において計画通り進行
社会分科会	社会の発展に関わるマテリアリティ解決に向けた全社活動の推進	・ 人々の価値創出の支援に向けて、産業機器事業、P&S事業でサステナビリティ目標に掲げた活動を推進 ・ 従業員エンゲージメント調査の実施（ブラザー工業） ・ サプライチェーン人権DDの実施 ・ 紛争鉱物調査の実施 ・ ベトナム工場においてRBA Gold認証を取得
コーポレートガバナンス分科会	ビジョン実現とそのため経営戦略の実効性を促進するコーポレートガバナンスの構築	・ 取締役会での議論に資する社内情報の社外取締役への提供 ・ 社外取締役と社内人財との交流会、社外取締役座談会の開催

2022年4月に、社長を委員長とするサステナビリティ委員会が発足しました。

サステナビリティ委員会の傘下に、「気候変動対応」「社会」「コーポレートガバナンス」に関する3つの分科会を設置し、マテリアリティに関するそれぞれの役割に沿って活動を進めています。

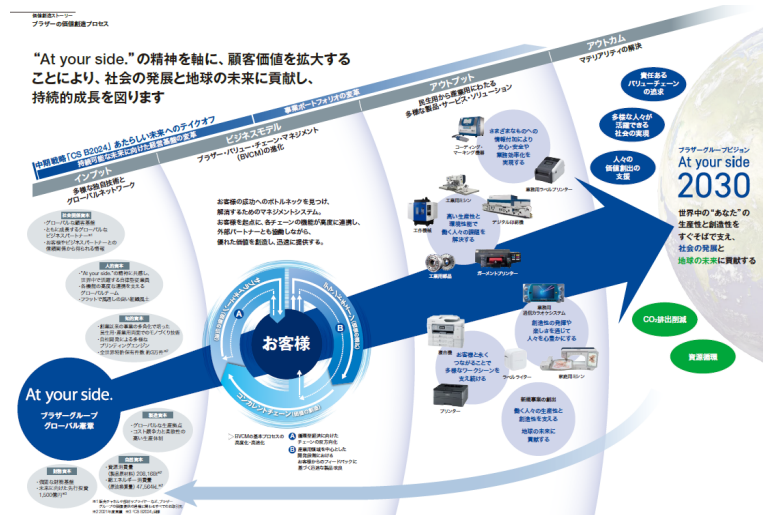
現時点の活動進捗を記載しておりますので、ご覧ください。

10月末に、日本語版の「統合報告書2022」をWebサイトで公開

- ✓ “At your side.”の精神を軸とし、ビジョン・中期戦略・マテリアリティの関連性を意識した構成に
- ✓ 価値創造プロセスを改定（サステナビリティ委員会で議論）
- ✓ 社外取締役座談会を掲載



表紙



価値創造プロセス

URL : <https://global.brother/ja/sustainability/report-archive/bir>

また、10月末に日本語版の「統合報告書2022」をWebサイトで公開しました。

昨年、ブラザーグループとして初の統合報告書を発行しましたが、2年目となる今回は、今年度からスタートしたビジョン・中期戦略とマテリアリティの関連性を意識した構成となっています。

価値創造プロセスの改定にあたっては、サステナビリティ委員会で議論を重ねました。また、社外取締役座談会など新たなコンテンツも追加しました。

なお、英語版は2022年11月末に公開予定です。

P&S製品を生産するブラザーインダストリーズ（ベトナム）が  
ブラザーグループ初のRBAのGold認証を取得



ブラザーインダストリーズ（ベトナム）



RBA Gold認定証

**Responsible Business Alliance (RBA)**

加盟企業が持続可能なサプライチェーンの構築を通じ社会的責任を果たすことを目的とする世界的な団体

ブラザーグループ 5つのマテリアリティ

社会  
の発展

- 人々の価値創出の支援
- 多様な人々が活躍できる社会の実現
- **責任あるバリューチェーンの追求**

地球  
の未来

- CO<sub>2</sub>排出削減
- 資源循環

2024年度目標：

「グループ製造拠点3拠点において  
RBA Gold認証を取得」

→1拠点達成

→他の2拠点も認定取得に向け対応中

最後に、RBA認証についてです。

9月に、プリンター・複合機の主力生産拠点であるブラザーインダストリーズ（ベトナム）が、RBA Gold認証を取得しました。RBA認証の取得は、ブラザーグループとして初めてです。

ブラザーグループでは、5つのマテリアリティを特定しており、そのひとつに「責任あるバリューチェーンの追求」があります。その2024年度目標として、RBA Gold認証を取得したグループ製造拠点数を3拠点とすることを掲げており、今回の認証取得で1拠点達成となります。

他の2拠点についても、認定取得に向け対応を進めています。

**brother**  
at your side



ビジネス領域		事業		分野（主な製品・サービス群）		
産業用領域	マシナリー・FA領域	マシナリー	ニッセイ	減速機 歯車	工作機械	工業用ミシン
	産業用印刷領域		産業機器			
		ドミノ	ガーメントプリンター	コーディング・マーキング機器	デジタル印刷機	
民生用領域	プリンティング領域	P&S (プリンティング&ソリューションズ)	ラベリング	業務用ラベルプリンター	モバイルプリンター	ラベルライター
	ホーム・カルチャー領域		汎用ラベリング			
		通信・プリンティング	P&H (パーソナル&ホーム)	家庭用ミシン	カッティングマシン	通信カラオケ機器
			N&C (ネットワーク&コンテンツ)			